

東つ子

たのしみが
ゆきわたる
東小学校

大雪にドラマ

雪は十四日（金）の朝から降り始めました。その日の午後には吹雪を思わせるほどの勢いでした。この日、天気予報では十五日は雨になるとのことでしたので、まあ大丈夫だろう、先週の雪よりは積もらないだろうと高をくくっていました。ところが、雪は十五日早朝まで激しく降り続き、朝まで暗いうち、恐る恐る戸を開けて見た外の世界はまるで目を疑うものでした。その後も昼頃まで断続的に降った雪は、甲府の積雪百四十センチという、山梨県人の誰もが予想だにしない積雪量を記録したのでした。この記録的な大雪に中、本校にはこんなドラマがあったのです。

十七日（月）は臨時休業。でも私たち職員は当然休みではありません。朝、学校の敷地内に車は一台も入れない状況で、ほとんどの職員は徒歩で通勤し、学校に着くなり手作業で西門の駐車場から雪かきを始め、まずは、自分たちの駐車スペースを確保することから作業を始めたのでした。

職員の中には、除雪の進まない道路を二時間も三時間も歩いて、ようやく学校へ到着する者もいました。校長の私は、車で家を六時四十五分に出て、いつもなら三十分余りで学校に着くのに、この日は十時になってもまだ旧二十号線の城東交差点。右に曲がって、スーパ―がちょうど開店だったので、カップ麺を買い占めて昼食の確保。学校に着いたのは十時半を回っていたのでした。

西門を入るとそこには二、三名の職員が一所懸命雪かきをしていました。雪の量は半端ではなく、この人数で半日掛けて西駐車場の三分の二ほど進むのがやっとでした。

昼食と休憩をとり、午後一台の重機が西門から入って来るではありませんか。聞いて、駐車場の雪かきを手伝いに来てくださったとのこと。職員は皆、どんなにありがたく思ったことか、しれません。

見る間に、西駐車場から給食室の東側まで車が出入りできるような状態になりました。これで、給食の食材を搬入する導線を確保することができたばかりか、職員の駐車スペースも相当

に確保することができたのでした。この重機の救世主は、本校一年生の辻くんのお父さんで、辻緑化土木（株）の経営者です。

実は、人力ではとても太刀打ちできないほどの積雪に、重機を使用したい。そう、業界関係の保護者に頼んでみようかと思って、電話を掛けてみたりしたのですが、あいにく電話が通じなかったり、重機は使用していただくよりも知人に連絡をとってくれましたが、何せ県内全てが同じ状況で、何せいな状況でした。どうしたものかと思案しながら学校周辺の歩道の状況を見歩いてい



重機の力はすごい！！

て、ちょうど正門の信号のところまで来たとき、一人のご婦人が私のところまで足場の悪い中を歩いてこられた、こんなことを言ったのです。

「うちの職人が歩道を除雪して道を空けています。この後、学校の南側の歩道を歩けるように除雪します。」と「どちらさまですか。」と尋ねると一年生の辻くんのお祖母さまだとのことでした。そのとき、私は、お礼を言うどころか「もし時間があれば、学校の裏側の給食室への車が入りできるようなにしていたら、と、全く身勝手なことを言っていたのでした。ワラをもすがるという思いだったのでした。」

するとどうでしょう。直後、辻くんのお父さんが重機で来てくれたのでした。重機で雪をかく様子は、あまりにも速く見事なもので、私たちは思わず見入ってその場に呆然と立っていました。

大雪に関わる仕事で大変お忙しいにもかかわらず、時間をやり繰りして本校の除雪のために来ていただいたのです。その上さらに、翌十八日も、辻さんに加え、職場の人も派遣してくださり、校舎北側の車が入りするスペースを除雪し

てくださいました。本当に助かりました。ありがとうございました。

除雪は進んでいるものの、まだまだ、道路脇や駐車場の庭など雪の固まりが山積みになっていきます。屋根の雪は、今にも崩れ落ちそうなのところがいっぱいあります。気温が上がると雪の山や屋根の雪がいきなり一気に崩れ落ちる危険があります。雪解け水で水路が溢れることも心配です。

まだまだ大雪による危険は去っていません。ご家庭でも、様々な危険を想定してお子さんへの注意喚起をお願いいたします。



除雪が進んだ校舎北側

【まだまだ危険】